

# 初詣山行 七面山

## 2006.1.2-3

### メンバー


### 会計

項目	金額
自宅→下部温泉駅	各自
下部温泉駅→(タクシー)→羽衣 ¥5,530÷2=2,765	¥ 2,765
大野木→(バス)→静岡駅	¥ 1,400
静岡駅→(電車)→自宅	各自
宿泊費(1泊2食付)	¥ 5,200
食費、行動食	各自
温泉代	¥ 500
お土産代	各自
合計	

### 食料

- 1/2D : 精進料理(ごはん、味噌汁、酢の物、昆布、大根の煮付け、みかん)、お神酒  
⇒シンプルな精進料理。しかし、ごはん味噌汁はおかわり自由だったので、胃は満たされた。お神酒も1合をりゅうと二人で飲んだ。
- 1/3B : 精進料理(ごはん、味噌汁、海苔、昆布、大根の煮付け、漬物)、お茶  
⇒やはりごはん味噌汁がおかわり自由でよかった。また同じこたつを囲んだ一家から、残り物の昆布や煮付けをいただいたので、おかずも十分!?
- 1/3L : 行動食 (ラーメン中止)

## 行程表

1/2(月)

羽衣(500m) → 肝心坊(13 町目) → 中適坊 → 晴雲坊(35 町目) → 敬慎院(1,700m)  
14:00                      14:35/14:40                      15:55/16:05                      17:00

【歩行時間:2h40m】

1/3(火)

敬慎院 → 七面山(1,982m) → 第二三角点 → 八紘嶺(1,917m)  
8:30                      9:10/9:20                      10:35/10:45                      12:25/12:45

→ 分岐(1,320m) → 梅ヶ島温泉(800m)  
14:05/14:05                      14:30

【歩行時間:5h00m】

梅ヶ島温泉 →(徒歩)→ 大野木 →(バス)→ 静岡 →(JR 東海道線)→新橋  
15:30                      17:00/17:25                      19:00/20:13                      23:22

## 記録

1/2

8:15 中央線塩山駅。爆睡していた私が目覚め、携帯を手にとると、着信 1 件とメールが 1 通届いていた。着信主は吉田隆。そしてそのメールの内容とは、「**どうしよう。今起きて**

**しまいました。」**

今から出発ではバスがないのでは…、と心配する彼に対し、準備ができていなら、とにかく北総線に乗ってそれから考えよう、と促す私。これでよかったんだよね??

12:10 甲府駅。予定より 3 時間 15 分遅れの合流。結局りゅうは、**特急あずさを使って**駆けつけてくれた。**りゅう、あけましておめでとうございます。そんな感動の再会をよそに、ホームの外は雪が降っていて寒いので、身延線に乗り込む。(しかし、身延線内は暖房効果を上げるための手動式のドア。暑かった…。)**

13:20 身延駅まで電車で行き、バスで七面山登山口へ、という予定だったが、急遽下部温泉駅で下車。下部温泉駅からタクシーに乗り、七面山登山口を通過し、林道終点の羽衣まで行く。タクシーのお蔭でかなり時間と距離を稼げた。タクシーの中のラジオで、箱根駅伝が話題に。正月だ。

14:00 羽衣出発。しかし、駐車場付近の登り口から登り始めて数秒後、ふと見下ろすと鳥居がある。

きっとあの鳥居こそが正規の登山口に違いない!! というわけで、今登ってきた道を引き返し、

鳥居まで回って、改めて登り始めた。(ちなみにこの鳥居が二町目となっていた。一町目はどこにあったのだろうか??)

敬慎院の表参道はほぼ階段状で、登るごとに『××町目』との目印があり、また至る所にあるベンチで小休憩ができる。40 町目の敬慎院まで無事に辿り着けるだろうか。

14:27 10 町目通過。**快調!!** このペースなら、あっというま??

14:35 肝心坊(13 町目)にて休憩。ドン、ドン、と太鼓を叩きながら下りてくる信者がいた。また、背中に南無阿弥陀仏と書かれた白装束を着た集団もいた。やはり、信仰深い山のような。(14:40 出発)

15:05 登山客とすれ違う。話し好きのおっちゃんに捕まり、足止めを食らう。(15:15 出発)

15:55 晴雲坊(35 町目付近)にて休憩。温度計を見ると **0°C**。寒い…。(16:05 出発)

16:15 40 町目到着。**ゴール!!** と思いきや…、あれれ、まだ道が続いている。敬慎院は

**いったどこだ…!?** 40 町目がゴールではなかったのか…。

敬慎院に登るのが510回目という中澤さん(75歳)に出会う。七面山の研究にいそしむ学者肌で、七面山に関する本も執筆しているそうである。また、様々な奇跡的な霊体験もあるようで、登山中ずっと話し続けていた。

中澤さんの誘導もあり、ようやく敬慎院のお寺の門をくぐる(46 町目くらい??)。門をくぐってからも登り階段は続き、見晴台のような場所が 49 町目。晴れていれば、ここからとても美しい富士山と御来光が見えそうだが、我々が着いたのは日没後の薄闇。そして、49 町目の門をくぐり下り階段を下りきると、なぜ山の中にこんなにも**広々**かつ**荘厳な**お堂が…、と思えるくらい立派な敬慎院に到着。(ゴールは50町目でした…) (17:00 到着)

17:00 ヒメ、靴を脱ごうとして右足のふくらはぎを**つる**…。

その後受付をすませ、宿泊部屋まで案内してもらくと、30 畳くらいの大部屋に**こたつ**が二つ。**ストーブ**もある。すでに夕食のお膳が運ばれており、宿泊客がくつろいでいた。これが山の上だとは…。

同室の宿泊客は、北海道からやってきた日蓮宗信者の一家。7 年前より毎年欠かさず訪れ

ているそうで、今年は7歳と4歳の子供も表参道を歩いて登ってきたそうだ。この一家からは敬慎院のあれこれをいろいろと教えてもらう。

17:10 夕食。**精進料理**でおかずは質素だが、ごはんと味噌汁はおかわり自由。**お神酒1合**も各部屋に用意されていたが、北海道一家は飲まないようで、りゅうと飲み干す。お風呂の時間もあったが、お風呂はかけ湯が基本のようで、今回は遠慮する。

18:30 「**御開帳**」(御開扉ともいう??) 信者が本殿の奥に集まり、公開された仏様の前で手を合わせ、焼香した。

19:00 「**夕勤**」。信者が本殿に集まり、お経を聞くのだが、多くの信者がそれに合わせてお経を唱えていたり、またお経の本を持参して声に出している人たちもいた。**子供達も当然のように唱えていた**。また多くの信者があらかじめ祈願を申請していたようで、住職が信者個人の霊に対してのお清めであろうお経も唱えていた。今夜は特に信者が多いようで1時間半近くのお勤めだった。(結局、足はくずしました。すみません。)

20:40 その後、一度部屋に引き上げたが、何やらの儀式があるとのことで、興味本位でお堂を覗いてみると…。

「**題目講**」。暗い部屋の中で、みんなが太鼓に合わせて「**南無妙法蓮華經**」だけをずっと唱え続けた後、深い深呼吸を繰り返してその言葉を身体の細胞の隅々まで染み渡らせよう、という苦行の時間。私も参加してみるが、とりあえずそれで何もかもが救われるのならば、無心になって唱えてみた。(しかし、**邪念**ばかりが頭によぎる…。未熟者です…。)

21:00 消灯。20人は雑魚寝できるという、横に長い敷布団と掛け布団で就寝。これぞ、**由緒正しき雑魚寝!?** おやすみなさい。

1/3

6:00 起床。まずは例の布団を**のり巻き状に巻いてたたむ**ことから1日が始まる。こたつの中に干していたりゅうの手袋がない!! 結局、のり巻き状にたたんだふとんを押し入れから一つ一つ出して手袋がないか探し続けたところ、**北海道一家のご主人**が発見してくれた!! **ご主人**、ありがとうございます!!

6:30 「**朝勤**」。本殿で朝の祈祷が始まるが…。

6:35 ご来光の時間がせまっているので、**朝勤を抜け出して見晴台**へ。しかし、ご来光は拝めず…。富士山の形はよくわかるが、どんよりとした雲もかかっていた。残念。

7:00 朝食。再び**精進料理**。  
その後出発準備となのだが、こたつがあると思わず抜け出すのが遅くなる??

そうこうしているうちに、北海道一家とお別れ。お世話になりました。

8:30 70人の団体客の信者達を横目にしながら、出発。**さらば、敬慎院!!**

七面山へのルートは所々にある赤テープが目印ではっきりとしている。積雪は5~10cmくらいだが、時折数十cmの積雪も見られた。それにしても昨日ずっと登り続けたためか、ふくらはぎの筋肉痛が登り道のペースを遅らせてしまった。

9:10 七面山到着。**テントが張れそうなくらい**広々としていた。(9:20 発)

その後ルートからはずれた七面山のすぐそばのピークを目指したが、ピーク付近らしき所には何もなかった。結局登山ルートに戻り、森の中の稜線を進んでいく。

9:45 **希望峰**。小休憩。景色はよく写真を1枚。

10:35 第二三角点。確かに三角点はあるが、**三角点しかない**ともいえる小さな空間。(10:45 発)

気を取り直して出発。この辺りで**スピッツ**を歌い出したら、なんと晴れてきた!! やはり

**私の**スピッツの歌声には、晴れ男のパワーを上げる効果があるようだ!!

11:10 ヒメ、**こける**。右ひざを思い切り雪に埋もれた岩にぶつけてしまった。原因は、右足のアイゼンの爪が、左足のレインウェアをひっかけてしまったからのようで、レインウェアは大きく裂けていた…。

11:30 休憩。八紘嶺までの断続的な登りが始まる前に、**おなかを満たしておく**。(11:40 発)

八紘嶺までの登りは、何度となく**偽ピーク**に騙された…。

12:25 八紘嶺。この頃には青空も広がり、富士山もよく見えた。本当はここでラーメンを作るはずだったが、温泉とバスの時間のことを考え、行動食のみのお昼とした。(12:45 発)

これより下り坂。私はサポーターのおかげか、まったく膝痛がおきずで万歳!!

13:50 休憩。アイゼンをとる。

14:05 分岐点を通り。これより、バスの時間のことを考え、**競歩**状態で下る。(我ながら、本当に猛スピードで、暑かった!!)

14:30 梅ヶ島温泉着。万歳!! そして時間がないながらも急いで温泉。

身体も芯から温まり、いい山行だったね、めでたしめでたし、と終わるところだったが…。

15:28 15:28 発のバスに乗るはずだった。**乗るはずだった!!** がしかし、今日に限って雪道

のためこのバスは梅ヶ島温泉まで走ってこないとのこと(雪なんか降ってないのに…)。結局、バスが折り返し地点となっている大野木バス停まで歩くことになってしまった…。(とりあえず、気を取り直して、梅ヶ島温泉付近にある滝を見学してから出発。)

ここから大野木バス停まで **6km** の道のりを歩く、**歩く、歩く…**。とにかく寒かった。温泉で温まった身体もどこかへ行ってしまった。しかも、ただバスに乗るつもりその格好は、ニット帽もマフラーも手袋もサポーターもタイツも身に付けていない…。時折**粉雪は舞う**。車は

**何台も通り過ぎる。そのうち日も暮れる…。寒い、寒い、寒い…。**

- 17:00 ようやく大野木バス停着。しかしそのバス停は自販さえもない**ごく普通の**山道の途中の停留所。すでに三日月の月夜。あまりの寒さもあり、お湯を沸かしてコーヒーを飲む。
- 17:24 本当に来るのかと不安にさせられた、静岡駅行きのバスがようやくやってきた。バスの中はこんなに暖かいのか!! しかし、バスが出発してから 1 時間くらいの道のりは、他の乗客が誰も乗ってこなかった。こりゃ、バスも折り返し地点を短縮したがるってもの!? (同情)
- 19:00 静岡駅。駅ビルのうどん屋で腹を満たし、お土産を買う。
- 20:13 東海道線の長旅が始まる。そういえば、今までほとんど東海道線を使って山行へ行っただけがなかったことに気づく。しかし、**東海道線は下界の人々が多く、山っぽくない**、という見方も。(山といえば、やっぱり中央線!?) でも南アルプスは東海道線で行こうね!!
- 23:22 新橋にて下車。解散。**おつかれ!!**

(久々に記録をつけてみたら、長くなってしまいました…(笑)。)

記録:石川暁崇

## 七面山 2006.1.2-3 山行記録

初詣山行に行きたい!!

というわけで、以前から密かに狙っていた七面山を選んだ。日蓮宗の総本山で、一年中信者が絶えないという噂も、ちょっと謎めいていて興味津々だった。(ちなみに、母方の実家は日蓮宗の檀家なので、もしかしたらやはり何か縁があったのかもしれない。)

今年は日本海側で例年以上の大雪と言われているが、雪雲は南アルプスにさえぎられているのか、七面山にそれほど深い雪はなかった。表参道は登山客よりも、古くから信者に親しまれている参道だけあって、階段状に整備され、至る所に休憩用のベンチが設置されていた。ただひたすら登るわけで、登り始めは楽チンに思えたが、いつまでも続く登りは、思ったよりも体力を奪われた。

400年前(700年前!?)に建てられたという敬慎院は、質素だがとても美しく、かつ生活感のあふれたお寺だった。そして冬の季節は氷点下10度の世界。その張りつめた空気が、お堂により一層の厳格さをもたらすように思われた。しかし、それとはまったく対照的なのが宿泊部屋の暖かさ。昔から寒さに震えた信者も、この部屋で暖を取り、みんなで列になって長い布団にくるまり、身体を温めあったのかもしれない。

(ちなみに、この晩私は初めて、貸出用の湯たんぽを使用してみたが、実に温かい!! しかも翌朝は湯たんぽがちょうどよいぬるま湯に変わり、これで顔を洗えば手も顔もほかほかで、かつ無駄がない。湯たんぽを考え出した人の智恵に敬服したのであった。)

南無妙法蓮華經。この言葉を繰り返し唱えることで、果たしてどれだけ救われるのだろうか。(日蓮宗を信仰していないどころか、この御題目にさえ疑問を感じているうちは、決して救われることはないか…) しかし、昔から「救われたい」願望の強い私にとって、もしこれで私の人生が救われるのなら、懸命に唱えてみてもよかったのかもしれない。試しに無心になって一日中唱えてみたら、何かが変わるだろうか…。(期待するだけ無駄!? 自分で何とかしろって!?)

二日目は八紘嶺までの縦走。積雪はそれほど深くなく(それでも私はアイゼンを装備していたが)、一時は青空も見え、さわやかに歩けた。やはりキーワードはスピッツだろうか!? りゅうも歌ってくれたけど、今度はもっと大きな声で歌っていいよ♪ それと特筆すべきはラスト25分の下り。りゅうが、今の方向転換はサッカー選手のような足取りだった、というくらい競歩で歩き続けた。もうすぐ温泉、というパワーは何ものにも勝るのだった。(というより、膝が痛み出さなくて本当によかった。サポーターのおかげか!?)

今年も年始からりゅうと一緒に山行に行くことができ、本当に楽しかった。本年もどうぞよろしく願います。

★今回のいちばんの驚き：「りゅうの足の長さが25cm」 えっ!? (本人もびっくり!?)

石川暁崇